

第5学年2組 社会科学習指導案

指導者 川崎市立宮崎台小学校 藤沢 俊太

1. 日時・場所 平成24年7月4日(水)5校時 13:30～ 第5学年2組教室

2. 単元名 水産業のさかんな地域をたずねて

3. 単元目標

- ・水産業がさかんな地域について調べ、その地域の特色や人々の工夫や努力、悩みをとらえることができるようにする。
- ・水産業が加工や運輸などの仕事と密接にかかわり、水産資源や環境を守りながら漁業を進めていることに気づくことができるようにする。

4. 評価規準

社会的事象への 関心・意欲・態度	社会的な 思考・判断・表現	観察資料活用の技能	社会的事象についての 知識・理解
日本の水産業について意欲的に調べ、自分たちの食生活を支えている水産業が今後どのようなようになっていくとよいか考えようとしている。 ①⑥⑧	水産業に携わる人々の工夫や努力、水産業と加工や運輸などの仕事とのかかわり、自然環境を守るための取り組みについて考え、適切に表現している。 ②③④⑥	水産業に関する資料や地図、統計などの資料を目的に合わせて、収集・選択し、的確に読み取っている。 ④⑤	日本の水産業がさかんな地域の様子や、日本の水産業の現状と課題を理解している。 ⑤⑦

※○の数字は○時間目の評価を表す。

5. 単元について

(1) 児童の実態とめざす子どもの姿

①児童の実態

男子19名、女子19名の38名の学級である。全体的に明るく、課題に対して意欲的に学習に取り組むことができる児童が多い。しかし、5年生の社会科で多く登場する表やグラフなどの資料をまだ上手く読み取ることのできない児童や、授業中の発言に苦手意識をもっていたり、自分の考えに自信がもてなかったりする児童も見られる。

魚や海藻などの水産物は、家庭の食卓や給食にも出てくる子どもたちにとって身近な食材である。しかし、魚は切り身の状態しかイメージできなかつたり、自分たちが食べている魚がどのようにしてとられているのか知らなかつたりする児童も多い。前単元の「農業のさかんな地域をたずねて」では、農業に携わる人々の工夫や努力について学習した。社会の学習だけでなく、総合的な学習の時間にはバケツ稲を育て、稲の成長は天候が大きく左右することや、毎日欠かさず水を与えなければならない

ことなどの苦勞を肌で体感した。実際に自分たちが農業を体験したことで、農業が身近に感じられるようになった子どもたちも多い。しかし近くに海や漁港、魚市場などのない川崎では、水産業は子どもたちにとって遠い存在となっている。

②めざす子どもの姿

水産業が子どもたちにとって遠い存在であると考え、本単元では家庭でも気軽に食べられており、給食にもメニューとして登場するさんまを取り上げる。また、「魚は釣る、網でとる」などのおおまかなイメージしかもてていない児童も多く見られる。実際に見学をしたり、漁業に携わる人の話を直接うかがったりすることができないので、写真や映像などの資料を効果的に使用し、魚の習性を利用して漁をしていることや魚の種類によって漁法が異なることなどの漁業に携わる人の工夫や努力に迫っていきたい。

本単元では、水産業に携わる人々の工夫や努力、水産業が加工や運輸など様々な仕事とかかわり合っていることに気づかせるだけでなく、日本の水産業の現状や課題について理解することも大きなねらいの一つである。とる漁業に従事する人々、育てる漁業に従事する人々、海の資源のために自然を守ろうとする人々と、水産業に携わる様々な人々の思いや願いに迫り、今後の日本の水産業のあり方について考えていけるようにしたい。また、水産業と自然環境とのつながりについて考え、環境を守っていくことの大切さや自分たちにはどのようなことができるのかを考えていく態度を育てていきたい。

(2) 単元設定の理由

本単元では、私たちの食生活に密接なかかわりをもつ水産業について学習する。日本は周囲が海に囲まれており、水産業は重要な産業である。また、日本人は他の国に比べて魚を多く食べており、子どもたちも食卓にのる魚の名前は知っている。しかし、その生息地や捕り方、どのような人が関わっているのかについてまではよくわかっていない。水産業の学習が子どもたちにとって身近なものと感じられるように学習を進めていきたい。

水産業は、食料資源の確保や自然環境のかかわりなどの観点から様々な問題を抱えている。例えば、200海里規制による漁場の制限や捕りすぎによる水産資源の減少などがある。また、労働条件や労働環境の厳しさ、危険性、将来性や雇用の不安などの理由から、漁業で働く人が減少している。

さらに、日本の水産物の消費量・輸入量はともに世界一となっており、その動向は世界に大きな影響を与えている。こうした海外からの輸入等の問題を通して、子どもたちは日本全体、あるいは世界との関わりからみた食糧という点にまで目を向けていくことができる。

こうした様々な問題を抱える中、環境や資源の保護を考えた「守り育てる漁業」が行われるようになってきている。人々が食料を安心して食べられるように、色々な取り組みが行われていることについても学んでいけると考える。

また、水産業についての写真やグラフを通して、わが国の水産業の意味や自然環境とのバランスについて考えることができる教材でもある。こうした写真やグラフから問題を発見する力は、次学年からの歴史学習においても必要とされると考える。

本単元の学習を通して、簡単に手に入れることができなくなってきた食料を確保するために、様々な人が努力していることに気づかせたい。また、魚の新鮮さを保たせて消費者に届ける工夫や資源を守り育てる取り組みをしている人々について学んでいく中で、普段食卓にのぼる魚を目にしたときに、

それにかかわる人のことを思いうかべるようになってほしい。

6. 研究テーマとの関わり

「コンピュータやデジタルカメラ、教材提示装置、ワイヤレスペンタブレット、ビデオプレーヤーなどといったICTは、教室に常設された大型のデジタルテレビとつながることによって、映し出す内容を簡単に大画面で扱えるようになる。このことが、従来の授業方法と適切に組み合わせられると、より『わかる・楽しい』授業づくりができる。」

川崎市立小学校情報教教育研究会は上記の内容を平成22年度の研究会総会で唱え、以後3年間にわたって大切な考え方の一つとしながら、次のような研究テーマの中でICT活用に関する授業研究を進めてきた。

研究テーマ

「自ら学ぶ力と豊かな心を育てる情報教育をめざして」

－ メディア活用で育てる情報活用能力，メディア活用で伸ばす確かな学力 －

今回の取り組みでは、以下の点を意識しながら学習指導案を作成した。

- 「メディア活用で伸ばす確かな学力」の要素に重点を置く。
- 扱うメディアの中心を教科指導におけるICTに置く。
- 日頃の授業づくりに役立つような内容を提案する。

日常生活の中で、海や漁港、魚市場などがあまり身近ではない川崎の子どもたちにとって、水産業は感覚的に遠い存在である。本単元で目指していることは、教師がICTを「有効、適切に」活用して授業を行うことで、そうした子どもたちが、水産業に関する諸々の事象について具体的なイメージを持てるようになること。そして、興味や関心などを高めながら水産業のさかんな地域の特色や人々の工夫や努力、悩みをとらえ、日本の水産業の現状と課題を理解できるようになることである。

特に資料の提示に関して、「ICTを活用する場面」と「ICTを活用しない場面」を組み合わせた授業づくりがいかにかできるか、が大きなポイントとなるであろう。

- 資料を提示する目的（ふりかえる、学習問題をとらえる・深める・広げる・まとめる など）
- 資料を提示するタイミング（どの段階で見せるか）や発話（発問や指示）
- どんな資料を提示するのか（実物、静止画、動画など）
- どのように提示するのか（実際に触れさせる、比較させる、共通点を見つけさせる、部分的に見せる、全体を見せる、くりかえす など）

といった観点から、社会科の指導においてICTを「有効、適切に」活用できたかを検証し、以下の手だてが本時の目標を達成するために効果的であったかを検証していきたい。

- 「北海道沖」の書き込みがある発泡スチロールとさんまの実物を提示し、直接触れさせることで興味・関心を引き出した後、さんま漁の写真を部分的に大画面で提示してポイントを読み取らせる。
- 特徴的な漁法についての動画を視聴させる際に、漁法だけでなく人の動き（漁師が仲間に指示を出しているところなど）にも注目させ、さんまをたくさんとるための工夫について様々な面から気づかせる。
- 釧路漁協の方からいただいたメールを紹介し、水産業に携わる人々の工夫だけでなく、苦労や努力についても考えられるようにする。
- 教室で日常的にICTを活用する環境整備を行う。

7. 学習指導計画

単元の流れと児童の反応	支援と評価規準 ☆使用する ICT
<p>① 魚はどこで？</p> <p>○教科書に載っているそれぞれの水産物に名前を書き入れる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・マグロ ・アジ ・サケ ・カツオ ・さんま ・カニ <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;">水産物の写真</div> <div style="border: 3px double black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;">魚はどんなところで多くとれるのだろう。</div> <p>○水揚げの多い漁港はどのあたりに多く見られるのか資料から読み取る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・銚子が最も水あげ量が多いよ ・焼津や気仙沼も水あげ量が多いね ・全体的に水あげ量が多いのは太平洋側だ <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;">日本の主な海流と水揚げされる主な水産物の量</div> <p>○暖流や寒流などの海流ととれる水産物の量や種類の関係について考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・暖流に近い漁港と寒流に近い漁港では、水揚げされる水産物が違う ・黒潮の流れには、かつおやまぐろが多いな ・親潮の流れるところはさんまやさけが多いよ <p>○水産業のさかんな地域の条件を考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・水揚げの多い漁港の近くには暖流や寒流などの海流が流れている ・太平洋側の暖流と寒流がぶつかる部分に特に水揚げの多い漁港が集中している 	<p>支援と評価規準 ☆使用する ICT</p> <ul style="list-style-type: none"> ・魚の名称の正解・不正解だけでなく、「食べたことがある」や「どこでとれるのだろう」などの感想や疑問を引き出し、水産物への関心を持たせる。 <p>☆50 インチテレビ，拡大提示装置 ワイヤレスペンタブレット</p> <p>【関心】 自分が食べている水産物がどこ、どのようにしてとられているのか関心をもって調べようとしている。</p> <p>☆50 インチテレビ，拡大提示装置 ワイヤレスペンタブレット</p> <ul style="list-style-type: none"> ・読み取りが難しい児童には、まず水揚げの多い漁港の場所を確認させる。それからその場所の共通性を考えさせて段階的に資料を読み取らせていく。また、水揚げの多い漁港の位置と海流の流れ方の2つを関連づけて考えるよう助言する。 ・海流のぶつかり合う潮目の部分は魚のえさとなるプランクトンが豊富なため、多くの水産物がとれることを伝える。
<p>② 新鮮なさんまを食卓へ</p> <p>○発泡スチロールの中にはどんな水産物が入っているか考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・この発泡スチロール，スーパーの魚コーナーで見たことがあるよ ・北海道の水産物と言えばカニじゃないかな ・でも，この手触りはカニじゃないな ・細長い形をした魚だからさんまだと思う <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;">魚の入った発泡スチロール</div> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;">さんまの実物</div>	<ul style="list-style-type: none"> ・漠然と予想させるのではなく，手触りやにおいから水産物を予想させる。 ・発泡スチロールに書かれている「北海道沖」の文字に注目させ，北海道でとられた水産物であることを確認する。

<p>○さんま漁の写真を見てわかったことを発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・たくさんの魚が水揚げされている ・この魚はきっとさんまだ ・トラックいっぱいさんまが積まれている <p>さんま漁の写真 日本の主な海流と水揚げされる主な水産物の量</p> <p>一度にたくさんのさんまをとるためにどのような工夫をしているのだろう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・前時に学習した資料から、北海道では多くのさんまが水揚げされることを確認する。
<p>○予想を話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・機械を使ってさんまの群れを探しているんじゃないかな ・漁師の人はさんまがよくとれるポイントを知っているんだ ・旬の時期にはたくさんとれるんだよ ・竿で釣るのは大変だから、網を使って一気にとっているんだと思うな <p>○さんま漁の絵からわかることを発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・光を当てながら作業しているから、漁は夜にしているのかな ・やっぱり網で一気にとっているよ ・船の逆側にもライトがたくさんついているよ <p>さんまの棒受け網漁の絵</p> <p>○さんまの棒受け網漁の映像を見て、さんま漁をしている人の工夫をまとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・たくさんのさんまを捕るためにさんまが光に集まる習性を利用している ・魚を逃がさないようにポンプを使って吸い上げている <p>棒受け網漁の映像</p> <p>○釧路漁協の畠山さんからのメールを読み、本時の振り返りを書く。</p> <p>釧路漁協の畠山さんからのメール</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・トラックに積まれたさんまは一度の漁で水揚げされたことを説明し、なぜ一度にこんなにたくさんとれるのか疑問をもてるようにする。 <p>☆50 インチテレビ、拡大提示装置 ワイヤレスペンタブレット</p> <p>☆50 インチテレビ、DVD プレイヤー</p> <p>【思考】 さんま漁に携わる人々の工夫を理解し、自分の言葉で表現している。</p> <p>☆50 インチテレビ、拡大提示装置</p> <ul style="list-style-type: none"> ・漁師の人の工夫だけでなく、苦労や努力についても考えることができるようにする。
<p>③ 漁業の基地をたずねて</p> <p>○根室港の様子を写真から読み取る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・漁港と魚市場が近い距離にある ・港には多くの漁船がとまっている <p>根室港の写真</p> <p>漁港や魚市場はどのような様子なのだろう。</p> <p>○資料から魚市場や漁港の様子についてわかることをまとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・さんまには様々な費用が値段に含まれている 	<ul style="list-style-type: none"> ・根室と川崎の業種別就業者の割合と比較し、根室では多くの人が漁業に携わっていることに気付かせる。 <p>☆50 インチテレビ、拡大提示装置 ワイヤレスペンタブレット</p>

- ・トラックへの積み込みやせりも魚市場で行っているんだ
- ・さんまが出荷されるまでにはたくさんの人々が関わっているんだな

さんまの値段に含まれる費用
水揚げから出荷までの写真
根室市の人たちの仕事

○前時に見た映像の続きを見て、せりや市場の様子や輸送の工夫を読み取る。

さんまのせりや輸送の映像

○加工工場で働く人の工夫や努力を調べる。

- ・特に衛生面に気をつけている
- ・消費者に安心してもらえるよう情報を公開している

加工工場の高岡さんの話

トレーサビリティ

④ さんまのゆくえ

○根室でとれたさんまがどのようにして自分たちの食卓に届くのか予想する。

- ・フェリー
- ・飛行機
- ・トラック
- ・貨物列車

根室のさんまはどうやって私たちの食卓に届くのだろう。

○さんまがどのようにして運ばれているのかを資料から読み取る。

- ・トラックもフェリーも使っている
- ・東京の店に並ぶまで3日間かかっている

さんまがとどくまで

○それぞれの輸送手段のよさを考える。

- ・トラックは出荷場所から港まで直接運ぶことができる
- ・最も速く運べるのは飛行機だ
- ・たくさん運べるのは船か鉄道じゃないかな

根室産のさんまを輸送する主な交通手段

⑤ 世界のなかの日本の漁業

○漁業別の生産量のグラフから変化を読み取る。

- ・沖合、遠洋漁業が大きく減少している
- ・養殖漁業が徐々に増加してきている
- ・全体の生産量が減ってきている

漁業別の生産量の変化

【思考】

さんまが出荷されるまでには様々な仕事があり、それぞれに工夫や努力があることを考えている。

☆50 インチテレビ, DVD プレイヤー

- ・地図帳を使って、根室から川崎までの距離を確認させ、交通手段を考えさせる。

【技能】

写真や資料からさんまの輸送の交通手段や日数、移動距離など観点を整理して読み取っている。

【思考】

輸送には様々な方法があり、産地と消費者を結ぶ働きについて考えている。

- ・沿岸、沖合、遠洋漁業の概要が視覚的にイメージできるように黒板に図を書きながら説明する。

☆50 インチテレビ, 拡大提示装置
ワイヤレスペンタブレット

どうして漁業生産量が減ってきたのだろう。

- 漁業生産量が減ってきた理由を予想する。
 - ・魚をとりすぎてしまったからじゃないかな
 - ・魚好きよりも肉好きの人が増えたからだ
 - ・外国からの輸入が増えたのだと思うよ
- 200 海里経済水域と漁業で働く人の変化の資料を読み取り、漁業生産量が減ってきた理由をまとめる。
 - ・漁業で働く人が減ってきている
 - ・特に若い人が大きく減少している

200 海里経済水域と日本の漁業の生産量
漁業で働く人の数の変化

- 漁業に携わる人たちの悩みや願いを知る。

悩み：200 海里経済水域による漁業制限などによって魚の生産量が減っている

願い：北方領土が返還され、豊富な水産資源を確保したい

中陳さんの話

北方領土の島々とその周辺

⑥ 未来につながる漁業

- 岩手県宮古市の位置を地図帳で確認し、写真から宮古市の様子を読み取る。
 - ・稲作で学習した南魚沼市より平らな土地が少ない
 - ・海岸がギザギザと入り組んでいる
 - ・海がずっと奥まで続いている
- 養殖カレンダーと養殖わかめの生産量のグラフを読み取り、気づいたことをノートにまとめる。
 - ・岩手県は養殖わかめの生産量が日本一だ
 - ・こんぶとわかめを1年間かけて養殖している
 - ・でもこんぶとわかめは出荷の時期が違うよ

養殖カレンダー
養殖わかめの生産量のグラフ

- 教科書を読み、宮古市でわかめやこんぶの養殖が盛んな理由を考える。
 - ・海岸は海底が深く、たくさん養殖することができる
 - ・川から流れ込む雪解け水には多くの栄養が含まれていて、

【技能】

グラフを正確に読み取り、漁業の生産量が変化してきた理由を教科書の記述とグラフを関連づけて考えている。

【知識】

漁業に携わる人に多くの悩みや願いがあることに気づき、日本の水産業の現状と課題を理解している。

- ・稲作で取り上げた南魚沼市と比較させ、宮古市の地形に着目させる。

☆50 インチテレビ、拡大提示装置
ワイヤレスペンタブレット

【関心】

守り育てる漁業に関心をもち、わかめや昆布の養殖の仕事について進んで調べようとしている。

☆50 インチテレビ、拡大提示装置
ワイヤレスペンタブレット

- ・わかめやこんぶの生育は地形や栄養分など、取り巻く自然環境が深く関わっていることをおさえる。

海藻を育てるのに適している
・海流のぶつかり合う海に面している

養殖漁業の様子や働く人々の思いはどのようなものだろう。

○漁師の佐々木さんの話から、漁師の仕事の工夫や努力を読み取り、仕事にかける願いを考える。

- ・海岸の清掃を行い、合成洗剤を使わない運動をしている
- ・みんなで協力してお金を出し合い、設備を充実させ、冬のしけなどを防いでいる
- ・豊かな海を守り続けていきたい
- ・わかめや昆布の養殖を未来につなげていきたい

漁師の佐々木さんの話

⑦ 水産資源を守るために

○サケについて知っていることをノートに書く。

- ・生まれた川に戻ってくる
- ・さんまにも光に集まる習性があったね
- ・サケの卵はイクラだ

○写真と資料からサケの栽培漁業がどのような仕事なのか調べる。

- ・サケをとってから放流するまでの流れがあるんだね
- ・ふ化場で育てたくさんの稚魚を放流しているよ
- ・グラフを見ると、年によってとれる量が違うね

栽培漁業の方法

津軽石川でとれるサケの数の変化

水産資源を守るためにどんな工夫や努力をしているのだろう。

○ふ化場で働く人の工夫を資料から読み取る。

- ・水をきれいに保っている
- ・川の栄養分が減っていないか調べている
- ・稚魚への刺激をできるだけ少なくしている
- ・地域で協力して山の植林や川の清掃をしている

ふ化場の萬さんの話

○これからの水産業について自分の考えをまとめる。

- ・水産資源はとりすぎず守っていかなければならない
- ・水産資源が生育する自然環境も守っていけないといけない

【思考】

漁師の人が自然環境を守り、思いを込めて育て、よりよい味を求める工夫や努力について自分の言葉で適切に表現している。

・さんまの習性を思い出させながら、身近な話題としてサケについて知っていることを引き出す。

・はまちも代表的な養殖魚であり、大きさや養殖か天然によってぶりと呼ばれることもあることを紹介し、養殖・栽培漁業への具体的なイメージをもたせる。

【知識】

養殖漁業や栽培漁業の課題を手がかりに水産業が抱える問題について理

- ・とりかたを工夫して、計画的に水産物をとっていくべきだ

③ 森は海の恋人

○森で植樹する写真を見せながら、森は海の恋人という活動名から考えたことを発表する。

- ・なぜ、森に海で使う大漁旗があるのだろう
- ・どうして海で働く漁師の人が木を植えているのかな

植樹祭の写真

漁師の畠山さんが、なぜ山に木を植えているのだろう。

○漁師の畠山さんが、なぜ山に木を植えるのか予想する。

- ・森が豊かになれば川もきれいになるからかな
- ・海だけではなくて山も大切な自然環境だからだよ
- ・わかめやこんぶの養殖では山からの雪解け水が大切だって学習したね

○畠山さんの話から活動の様子や植樹を始めた理由を調べる。

- ・上流に豊かな森林のある川が流れ込む海では、よいかきが育つことに気がついたんだ
- ・20年も前から植樹を始めて、多くの人たちが活動に参加するようになったんだ

畠山さんの話
森と海の関係図

○畠山さんが「森は海の恋人」という言葉に込めた思いについて考える。

- ・海を守るために、森も守っていききたいという思いだ
- ・森は豊かな海にとって恋人のように大切な存在だということだと思うよ
- ・豊かな海を未来に伝えていききたいという思いだと思うな

解している。

- ・写真からなぜ漁師の人が森で植樹するのかという疑問がもてるようにする。

☆50 インチテレビ，拡大提示装置
ワイヤレスペンタブレット

【関心】

畠山さんの植樹活動の意味を森と川と海の間を考えたとき、関心をもって調べている。

- ・畠山さんの話と森と海の関係図から、森や海を守ることは水産資源を守ることであるという関係性に気づかせる。

8. 本時の展開 (2/8)

(1) 目標

さんま漁の仕事の様子を理解し、さんま漁に携わる人々の工夫や努力に気づくことができるようにする。

(2) 展開

学習活動	支援と評価規準	使用する ICT
<p>1. 発泡スチロールの中にはどんな水産物が入っているか考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> この発泡スチロール、スーパーの魚コーナーで見たことがあるよ 北海道の水産物と言えばカニじゃないかな でも、この手触りはカニじゃないな 細長い形をした魚だからさんまだと思う <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p style="text-align: center;">魚の入った発泡スチロール さんまの実物</p> </div> <p>2. さんま漁の写真からわかることを発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> たくさんの魚が水揚げされている この魚はきっとさんまだ トラックいっぱいさんまが積まれている 北海道ではさんまが多くとれるんだ <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p style="text-align: center;">さんま漁の写真 日本の主な海流と水揚げされる主な水産物の量</p> </div> <p>3. 学習問題をつくる。</p> <div style="border: 2px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0; text-align: center;"> <p>一度にたくさんのさんまをとるためにどのような工夫をしているのだろう。</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> 漠然と予想させるのではなく、手触りやにおいから水産物を予想させる。 発泡スチロールに書かれている「北海道沖」の文字に注目させ、北海道でとられた水産物であることを確認する。 日本の主な海流と水揚げされる主な水産物の量の資料を使って、北海道では多くのさんまが水揚げされていることを確認する。 トラックに積まれたさんまは、一度の漁で水揚げされたこと伝え、一度の漁で平均 10 トン前後のさんまが水揚げされることを説明する。 	<ul style="list-style-type: none"> 50 インチテレビ 拡大提示装置 ワイヤレスペンタブレット <p>さんま漁の写真を拡大提示し、写真から必要な情報を読み取れるようにする。</p> <p>一度の漁で水揚げされるさんまの量を児童が想像しやすい別のものに置き換えてテレビに映す。</p>
<p>4. 予想を話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> 機械を使ってさんまの群れを探しているんじゃないかな 漁師の人がさんまがよくとれるポイントを知っているんだ 旬の時期にはたくさんとれるんだよ 竿で釣るのは大変だから、網を使って一気にとっているんだと思うな <p>5. さんま漁の絵からわかることグループで考える。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ここでも漠然と予想させるのではなく、テレビで見たことがあることや魚について知っている知識を活かして予想するようにさせる。 グループに1枚さんま漁の絵を配布する。グループで 	<ul style="list-style-type: none"> 50 インチテレビ 拡大提示装置

<ul style="list-style-type: none"> ・光を当てながら作業しているから、漁は夜にしているのかな ・やっぱり網で一気にとっているよ ・船の逆側にもライトがたくさんついている <p style="text-align: center;">さんまの棒受け網漁の絵</p>	<p>意見を出し合うことでどの児童も考えがもてるようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・さんまを新鮮な状態で漁港まで届ける工夫が出た場合には、漁師の人の工夫の一つであることを認め、次時以降で詳しく扱っていくことを伝える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ワイレスペンタブレット <p>さんまの棒受け網漁の絵を拡大掲示し、要点を拡大したり、書き込みをしたりする。</p>
<p>6. さんまの棒受け網漁の映像を見て、さんま漁をしている人の工夫をまとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・たくさんのさんまを捕るためにさんまが光に集まる習性を利用している ・ライトを少しずつ消して網に追い込んでいくんだ。それで一気にたくさんとることができる ・魚を逃がさないようにポンプを使って吸い上げている <p style="text-align: center;">棒受け網漁の映像</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「さんまをたくさんとるための工夫」に見る観点を絞って、キーワードで箇条書きさせていく。児童から出たキーワードを中心に2回目の視聴を行い、最後にキーワードをつかって自分の言葉でまとめる。 <p>【思考】</p> <p>さんま漁に携わる人々の工夫を理解し、自分の言葉で表現している。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・50インチテレビ ・DVDプレイヤー <p>さんまの棒受け網漁の映像を要点となる部分で一時停止したり、児童から出た考えに観点を絞ったりしてもう一度視聴する。</p>
<p>7. 釧路漁協の畠山さんからのメールを読み、本時の振り返りを書く。</p> <p style="text-align: center;">釧路漁協の畠山さんからのメール</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・漁師の人の工夫だけでなく、苦労や努力についても考えることができるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・50インチテレビ <p>メールの内容だけでなく畠山さんの顔写真も掲示し、児童にとって身近な存在となるようにする。</p>